

新たな北海道総合開発計画の策定に向けて

平成27年4月24日

国土交通省 北海道局

1. 新たな計画検討の背景

(1)時代の潮流

- ①人口急減・超高齢化
- ②グローバル化の更なる進展と国際環境の変化
- ③大規模災害等の切迫

(2)政府における重点的な政策課題の変化

2. 基本的考え方

(1)北海道開発の意義

- 北海道の資源・特性を活かして、その時々の国の課題の解決に貢献

(2)状況認識とビジョン

【来たるべき10年の位置付け】

- 「生産空間のサバイバル」「地域としての生き残り」を賭けた期間
- 北海道新幹線の開業など地域の飛躍の契機を内包する期間

ビジョン:2050年を見据え、「**世界水準の価値創造空間**」を形成

(3)施策フレームワーク

【課題への戦略的対応方針】

- ①地域の維持を目指し機能分担と連携を図る「**地域構造**」の保持・形成
- ②人材育成、交流・協働人口拡大等による「**多様な人材の確保・対流の促進**」

【課題に対応した主要施策】

- ③**人が輝く地域社会**～「世界水準の価値創造空間」の形成に向けた環境整備・対流促進
- ④**世界に目を向けた産業**～「しごと」を創り「外貨」を稼ぐ産業の振興(農林水産業・食関連産業、観光等)
- ⑤**強靱な国土**～再生可能エネルギーの活用、バックアップ機能の強化等を通じた強靱な地域の形成

【施策推進に当たってのポイント】

- 「**人**」こそが来たるべき時代の北海道の「**資源**」であり、**人材の育成・活用**を重点的に実施
- 民間の主体的な参画を促進し、関係者が連携するための**産学官のプラットフォーム**を重層的に展開

3. 地域構造

4. 多様な人材の確保・対流の促進

第2 各論

5. 「世界水準の価値創造空間」の形成に向けた環境整備、対流促進

6. 農林水産業・食関連産業

7. 観光・国際戦略

8. 産業政策

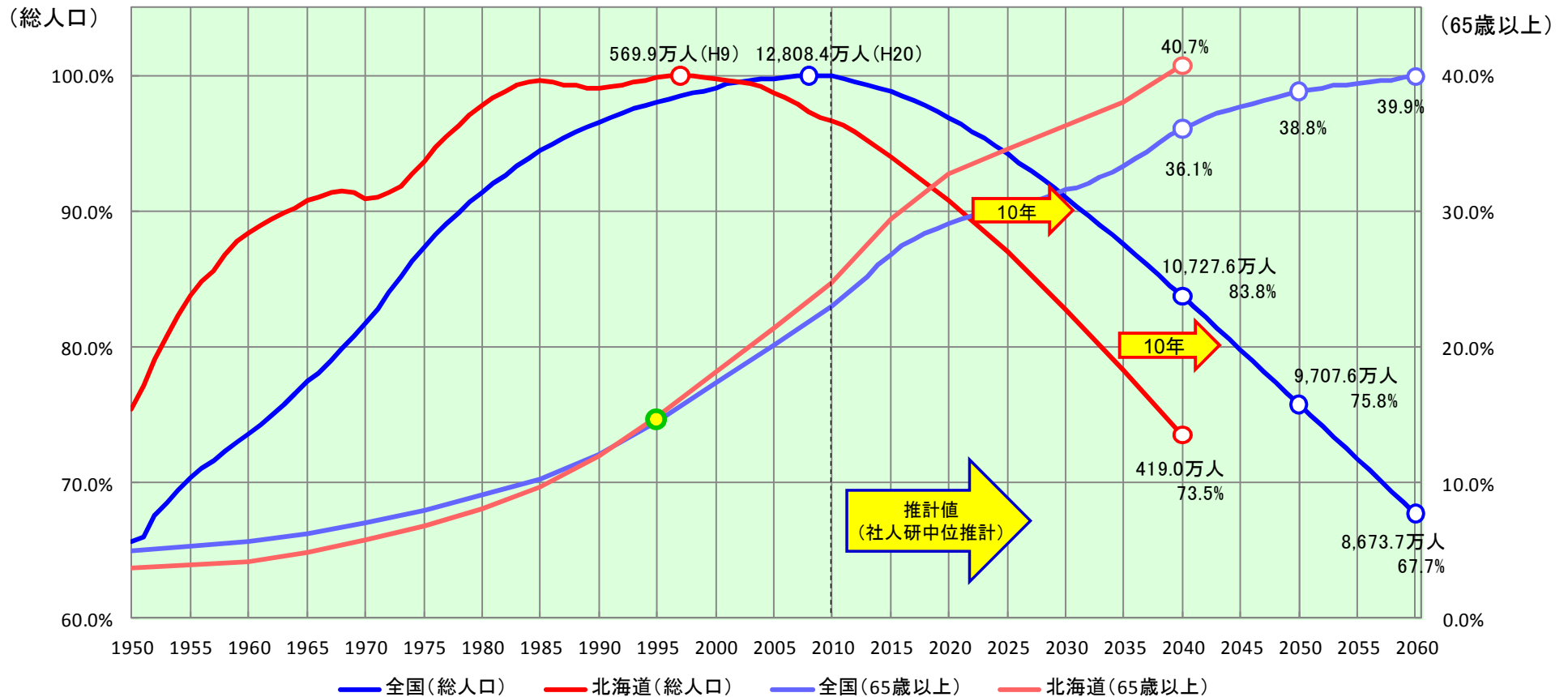
9. 環境・エネルギー

10. 強靱な国土づくりへの貢献、安全・安心な社会基盤の形成

人口減少・高齢化

- ・日本の人口は、2008年(平成20年)をピークに減少しており、2050年には、9,708万人と予測されている。
- ・北海道の人口は、1997年(平成9年)をピークに減少しており、ピーク人口の10%減、20%減ともに全国に約10年先んじて迎えると予測されている。
- ・1995年(平成7年)には北海道の高齢化率は全国を上回っており、高齢化は全国を上回るスピードで進展していくと予測されている。

全国と北海道の人口及び高齢化の推移(全国はH20を100%、北海道はH9を100%とした場合)



出典:総務省「国勢調査」、「人口推計」

国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」「出生中位・死亡中位仮定」、「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」
 沖縄県「沖縄県統計年鑑」

注:1951年の全国の総人口には、沖縄県を含まない

2010年までの高齢化率の算定においては、年齢不詳の者を除外している

北海道内の将来推計人口(2040年)と社会動態(2013年)

- ・社人研の2040年推計では、親世代の人口減少と出生率の低下、高齢者の増加などによる自然減が大きい。
- ・平成25年社会動態を見ると、道外への転入超は、男女とも就職期にあたる20~24歳などが多く、特に札幌市を除く道内からは男性が多く、社会減は経済雇用格差が基本的な要因と考えられる。
- ・札幌市については、男性は大学等の高等教育進学期に当たる15~19歳の転入超が最も多いが、女性は就職期にあたる20~24歳の転入超が最も多く、若年女性の転入超が顕著である。

北海道の将来推計人口

2010年
550.6万人

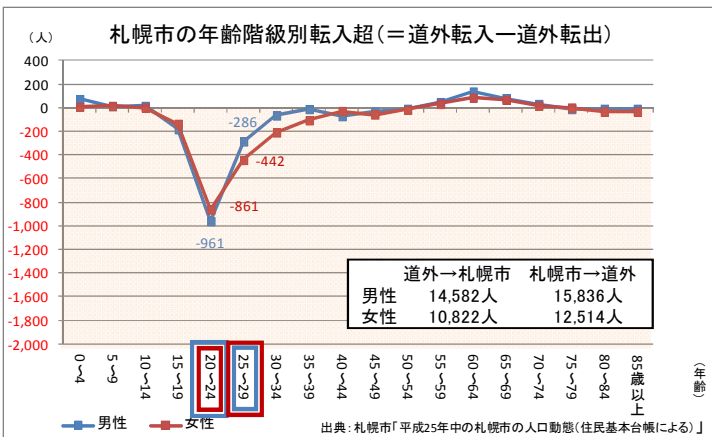
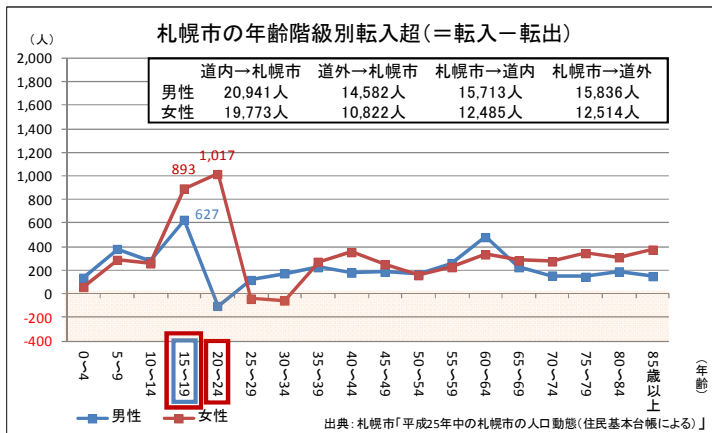
自然減 117.5万人
→平均 △3.9万人/年

2040年
419.0万人

社会減 14.1万人
→平均 △4,707人/年

※自然減は、「参考:封鎖人口を仮定した男女・年齢(5歳)階級別の推計結果」より算出。推計結果は、人口移動の影響が生じない将来の人口、すなわち人口の変動要因のうち人口移動を除いた出生と死亡という2つの要因によってのみ人口が変化するという仮説に基づくもの。社会減は、将来推計人口と封鎖人口との差。

出典:国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」



北海道の社会動態(2013年)

札幌市転入超
9,570人
男性 3,974人
女性 5,596人

道内→札幌市
12,516人

札幌市→道外
2,946人

道内転入超
△17,762人
男性 △8,054人
女性 △9,708人

道内→道外
5,246人

※ここでの「道内」は
札幌市を除く道内

道外
8,192人

男性 4,080人
女性 4,112人

